

視点

子どもの萌芽的読み書き能力： 芽生えの中にある育つ力を引き出し、支える



奈良教育大学教授 横山 真貴子

私たちの社会では、身の回りに文字があふれています。そうした社会の中で、子どもたちは文字を完全に習得する前から、文字を読むまねをしたり、文字らしきものを書いたりしています。こうした読み書き能力の芽生えを萌芽的読み書き能力と言います。では、子どもたちはどのように文字を習得していくのでしょうか。その道のりをたどってみましょう。

子どもたちは、生活や遊びの中で文字に触れる経験を重ねることで、文字が絵とは異なることや、何かを表すものであることに気づいていきます。最初は、自分の名前の文字に気づくことが多いでしょう。例えば「まなか」という文字が、自分のおもちゃや洋服に書かれているのを何度も目にする中で、これらの文字が自分の名前を「表す」ものだとわかるようになります。ただし、この時期は、一文字一文字が読めるわけではありません。文字のかたまりを「まなか」と捉えています。

文字のはたらきに気づくと、文字を読むまねをしたり、独自の文字を書くことを楽しみ始めます。「わたしも読んだり、書いたりできるのよ！」と言わんばかりに、ニヨロニヨロと線を書き連ね、「はい、お手紙！」と言って手渡してくれたりします。傍から見るとニヨロニヨロ線ですが、子どもにとっては、れっきとした「文字」です。書くという行為自体を楽しみ、遊ぶ時期です。

そうして書く経験を積み重ねる中で、文字の形にも次第に意識が向くようになります。見よう見まねで、文字らしい形が書けるようになってきます。書く活動を楽しみながら、書くことを学んでいくのです。

またこの時期、文字習得の認知的な基盤となる「音韻意識」も育ってきます。音韻意識とは、例えば「まなか」という連続音を「ま／な／か」の3音に分け、

最後の音は「か」だと取り出す力です。このように音を分解し、抽出する力が身につくと、1文字1文字が読めるようになります。拾い読みが見られるようになるのはこの時期です。

文字の読み書きが進むと、「表し、伝える」といった文字のはたらきをしっかり意識して、文字を使うとする姿が見られるようになります。5歳児6カ月の事例です。色水遊びが「ジュース屋さん」ごっこに発展し、いろいろな色のジュースが売り出されました。買いに来た子どもたちが「これ、何ジュース?」、「何ジュースがあるの?」と口々に聞きます。最初はお店屋さんの子も一人一人に答えていましたが、それでは大変。そこで「ジュースの名札を書いて置こう」、「メニューも作ろう」と、文字を書き始めました。

子どもたちは、教え込まれなくても、必要であれば、自分たちで文字を学ぼうとします。昆虫が大好きな子どもが、捕まえた虫の生態を詳しく知りたくて図鑑を開き、文字を読もうとする姿もよく見られます。また、文字がほぼ書けるようになった子どもは、「きれいに書きたい」と思うようになります。文字がほぼ読めるようになれば、「っ」などの特殊音節や助詞の「は」なども読もうとするようになります。

文字があふれ、文字の習得に高い価値が置かれる日本では、多くの場合、子どもたちは自然に文字へと目が向きます。生活や遊びの中で重ねてきた文字と関わる経験から、「読みたい」「書きたい」という切実な思いや必要感が生まれます。この思いが、文字の習得の原動力となります。

子どもたちの中にある、学びたい意欲や学びに向かう力を引き出し、支えることが教育の営みであると思います。

第 11 回都道府県政策担当者会議が開催される

9月25日、東京・私学会館にて全日私幼連の第11回都道府県政策担当者会議が開催され、全国から約140名の先生方が参加されました。主な内容は次の通りです。

■講演①「最近の地方財政をめぐる諸課題」

講師：福田毅・総務省自治財政局調整課長

国家財政と地方財政の仕組みについて、教育・社会保障・インフラ整備などの財政のしくみの概要に加え、その詳細な説明がありました。

平成31年度概算要求における地方財政の課題について説明があり、地方財政措置についての各府省への申入れが行われたことの説明がありました。社会保障の充実では、子育て安心プランの説明がありました。続いて人づくり革命については幼児教育の無償化、待機児童の解消、処遇改善について新しい経済政策パッケージの制度について説明がありました。

■講演②「平成31年度概算要求について」

講師：丸山洋司・文部科学省高等教育局私学部私学助成課長

平成31年度私学助成関係予算要求の概要について説明があり、一般補助の園児一人当たりの単価や特別補助の支援教育、預かり保育の推進などについて説明がありました。続いて私立学校施設の耐震化の現状と支援制度について説明がありました。

■講演③「幼児教育の振興について～平成31年度概算要求～」

講師：先崎卓歩・文部科学省初等中等教育局幼児教育課長

幼児教育無償化の実施について説明があり、幼児教育の質の向上総合プランについて新規事業の説明がありました。新規事業は以下の通りです。

①幼児教育推進体制の充実・活用強化事業



②幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業

③幼稚園の人材確保支援事業

④幼児教育の質向上のための評価実施支援事業

⑤先端技術を活用した幼児教育分野の実証研究

⑥幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究

続いて幼児教育の環境整備の充実について、私立幼稚園施設整備費、認定こども園等への財政支援についての説明がありました。

■政策委員会報告

1. 奥野宏・全日私幼連政策委員より、大阪府の私立幼稚園を取り巻く現状と題しまして大阪府の現状、守口市の無償化、子ども・子育て支援制度から3年が経過して、一時預かり幼稚園型Ⅱ型の問題点、幼児教育無償化について報告がありました。

2. 富樫克哉・全日私幼連政策委員より、富山県氷見市における無償化後の地方独自の政策立案についてご報告をいただきました。

3. 水谷豊三・全日私幼連政策委員長より、無償化についての実施方法、私学助成園と新制度園の処遇改善の違いについての報告や幼稚園と小学校の学費と教員の月給についての報告がありました。

(調査広報委員・宮本忠史)

平野早矢香氏（ロンドン五輪卓球女子団体 銀メダリスト）が記念講演

10月22日・23日 栃木県宇都宮市

10月22日・23日、栃木県宇都宮市・ホテル東日本宇都宮において全日私幼連の第34回設置者・園長全国研修大会が（一社）栃木県幼稚園連合会（石嶋勇理事長）の協力を得て開催され、全国から563名の先生方が参加しました。

今年度の大会テーマ「明日にむけて幼児教育の振興を考える」のもと、開会式に続き、平野早矢香氏（ロンドン五輪卓球女子団体銀メダリスト）による記念講演「昨日の自分より一歩前へ～卓球から学んだ挑戦することの大切さ～」が行われました。続いて、先崎卓歩氏（文部科学省初等中等教育局幼児教育課課長）より行政報告が行われました。その後、岩崎正明氏（株式会社ブラテック代表取締役）による幼稚園ナビ（アプリ）報告「『幼稚園ナビを業界インフラに』～幼稚園ナビで変わる幼稚園業界の人材獲得とキャリアプラン～」が行われました。

その後の夕食懇親会では、ナンテコッターズによるジャズ演奏が催される中、参加者間で活発な交流が行われました。

大会2日目は研究講座が行われました。研究講座の概要は次のとおりです。

【教育】幼児教育の質向上をめざして～園内研修をてがかりにして～【振興】「第一部」無償化にかかる私学助成園の諸課題と対策「第二部」私学助成園の処遇改善と私学助成金の増額を目指して【経営】人材確保～幼稚園ナビならびに各地域での教員採用事例を踏まえて【認定こども園】認定こども園として無償化にどう備えるか？

2日間の日程を無事に終えて閉会となりました。



▲開会式



▲ナンテコッターズによる演奏

* * *

第35回設置者・園長全国研修大会
来年度は、和歌山県での開催を予定しています。
詳細につきましては、決まり次第あらためてご案内いたします。

無償化と幼児教育の質向上

全日本私立幼稚園連合会政策委員長 水谷豊三

3歳から5歳（幼稚園の満三歳児保育を含む）までの全ての子どもたちの保育料が、消費税率引上げ時の2019年10月1日から無償化されます。

この無償化は「新しい経済政策パッケージ」（平成29年12月8日）の中では、保護者への負担軽減措置を図ることによる重要な少子化対策のひとつとして位置づけられています。

この無償化を主とする子育て関連の財政措置は0.8兆円といわれていますが、国がこれだけの巨額を投入するからには、幼児教育の質向上に向けた取り組みが誰にでもわかるようにすることが求められます。

全日本私立幼稚園連合会では、平成30年10月2日に常任理事会、臨時理事会を開催し、丸山洋司文部科学省高等教育局私学部私学助成課長と先崎卓歩文部科学省初等中等教育局幼児教育課長より次年度概算要求とともに、幼児教育の質向上のための予算要求についての説明を受けました。

その後幼児教育の質向上に向けて以下のことが協議案件として報告・議論され確認をいたしました。

①認可施設としての公的責任

- ・私たちは認可施設としての重要な公的任務を自ら引き受けていること。
- ・公費助成や税制等の優遇を受けて、常に社会のニーズに対応する努力を求められていること。

②幼児教育を取り巻く状況の変化

- ・子育てと仕事の両立支援のニーズが拡大していること。
- ・幼稚園、保育所のみならず営利・非営利間の競争が発生していること。

③無償化実施後の質の向上への期待・要請の高まり

- ・新しい経済政策パッケージにおいては、「幼児期の教育が特に重要であり、幼児教育・保育の質の向上も不可欠である。」と示されていること。

・無償化という巨額の財政措置が行われることは、これまで以上に質の向上への要請が高まることは必至であること。

・「教育の質の評価」「見える化」が避けて通れない課題となること。

・優秀な教員の確保が一層必要となること。

以上が全日本私立幼稚園連合会として臨時理事会において確認されましたが、幼児教育の質の向上とは何なのか、どういうものが数値目標となり得るのか、こうした課題について今後は複数の委員会で具体化し会員の皆様に発信してまいりますのでよろしくお願いいたします。

CHAPPY 園児管理シリーズ クラウド対応

園児管理システム

園長 先生

出席の管理
未就園児管理
バスコース管理
承認機能完備

個人カリキュラム
検査記録
課外活動一覧
指導計画

パソコン内ではなくデータセンターでの管理になるのでセキュリティに優れています。

開発・販売 株式会社 **チャイルド社** コンピュータ部

園で役立つ機能が満載！ しかも簡単入力で時間削減。
チャイルド社の園児管理システムは、忙しい先生を応援するためのシステムです。

パソコンでもタブレットでも使えます！

PC タブレット

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11 TEL 03-3333-2345
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

総合的な取り組みを実行するアクションプラン(仮称)の策定へ

(公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長 東 重満

水谷政策委員長がお示した通り、全日本私立幼稚園連合会臨時理事会にて確認された認識にあって、本研究機構では連携を図りながら下記について具体的な取組を推進します。

【幼児教育の質の向上への総合的な取組み】

- ①全ての子どもへの質の高い幼児教育の機会保証
- ②研修体系・体制の構築（キャリアアップ研修、幼稚園ナビ活用による事務効率化、広域研修体制の整備等）
- ③免許の上進
- ④学校評価の普及（関係者評価、第三者評価、ECEQ等）
- ⑤優秀な教員の確保（処遇改善等）
- ⑥研究体制の強化充実
- ⑦保護者等への幼児教育理解の普及
- ⑧教育課程の編成力・発信力を高める基礎的取組
- ⑨制度見直しへの提言 等

この中で優先度の高いものから順次取組みははじめられています。

1. 処遇改善のキャリア研修への対応について

加藤篤彦研究研修委員長を中心に、適宜文部科学省幼児教育課と確認しながら、研修内容を具体的に整理（研修俯瞰図と子ども子育て会議で示された研

修内容）し、これまでの学校教育体系の法定研修や免許状更新講習、研修俯瞰図に基づく私立幼稚園団体の研修等が一体的かつ確実に位置付く様、手続きを進めています。

2. 研修俯瞰図に基づく研修受講および履歴管理のデジタル化

経営研究委員会と連携し、幼稚園ナビの機能強化にあたって各団体が実施する研修への受講申込みから受講（出欠）確認、受講履歴の電子データによる一元管理のシステム構築を福岡県私幼、神奈川県私幼のご協力で行っています。平成32年度からの全国展開を目標としています。

3. 幼稚園教諭免許上進と関係者評価等の実施推進

実施にあたって困難が予想される教員免許の2種から1種免許への上進については、委託事業を想定し文部科学省予算化が進められています。また、ECEQなど公開保育を活用した質向上への取組みや学校関係者評価の実施促進に関する補助事業への予算化が進められています。こららの動きを追い風として会員園の取組みを推進します。今後、推進のためのプランの策定や具体的な取組みについて継続してご報告してまいります。

地域で愛される園になるためのサポートブック

園のリーダーのために

保育ナビ

管理職向け月刊誌

定価：本体価格926円＋税
B5判 72ページ

2018年12月号の主な内容

●特集1 異業種リーダーが考える チーム力アップの秘訣

保育においても他業種においても「チーム力」を高めることは大切。本特集では、保育の世界とは異なる分野で活躍中のリーダーたちに組織力・チーム力アップの秘訣をうかがいました。

●特集2 保育の新と真を探る 乳幼児の死亡率が激減した現代、長く医療に携わり、多くの子どもを見送ってきた小児科医・細谷亮太先生（聖路加国際病院顧問）と汐見稔幸先生が、命について改めて考えます。

●すてっぷ by すてっぷ 0・1・2歳 心の読み解き 2歳児をテーマにお送りする1回目。エピソードに出てくる子どもたちの気持ちの読み解きは井桁谷子先生（乳幼児教育実践研究家）ならではの、子どもの見方に気づかせてくれます。



ISBN978-4-577-81441-3 712

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <https://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育事業部営業本部まで

キンダーブックの **フレール館**

平成30年度 地区教研大会概要

関東地区・神奈川地区 教員研修大会

千葉県・千葉市／8月21日・22日

大会テーマ 「子どもたちの今と未来の幸せをねがって」

～楽しいあそびから共に学びあい、共に育ちあう～

平成30年8月21日・22日、千葉市において第33回関東地区・神奈川地区教員研修千葉大会が開催されました。メイン会場となった幕張メッセ国際会議場にて、山梨県・神奈川県・群馬県・栃木県・茨城県・埼玉県・新潟県、そして千葉県の8県、計1,500名を超える先生方のご参加により盛大に開催することができました。遠路、千葉の地までお越しいただきました先生方をはじめ、企画・準備・運営にご協力いただきましたスタッフの皆さまに心より感謝申し上げます。

大会1日目の開会式では、森田健作千葉県知事、熊谷俊人千葉市長のご臨席を賜り、心温まるご祝辞をいただきました。永年勤続者表彰では、全日本私立幼稚園連合会の表彰に235名の方が、(一社)全千葉県私立幼稚園連合会の表彰に40名の方がそれぞれ表彰されました。

オープニングセレモニー及びアトラクションでは、聖徳大学附属女子中学校・高等学校マーチングバンド部による、女子校らしい上品で優美な演奏を披露していただき大会を華やかに盛り上げていただきました。

記念講演では、今話題となっている“新しい地質時代として提案されている『チバニアン』”について、茨城大学教授、岡田誠先生をお招きして、チバニアンとはどのような時代を指すのかについてご講演いただきました。広く知られていない地質学の専門的で少々難しい内容もありましたが、参加者より「普段聞くことのない貴重なお話だった」「自然事象との向き合い方や長期スパンでの物事を捉える視点等について意識することができた」「園庭で穴を掘りながら、地層や地球について子どもたちと話ができ

たら楽しい」「地球規模の話が自分の中で広がった」という感想も寄せいただきました。

大会2日目のフォーラムは、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の教育研究課題による一般フォーラムが8フォーラム、千葉県独自の特別フォーラムが7フォーラム、計15フォーラムを構成しました。

一般フォーラムでは、各県がそれぞれのフォーラムを担当し、設定されたテーマに沿って調査研究し、現場の先生による問題提起がなされました。講義形式の講演・提案発表だけではなく、参加者もバズセッションなどのディスカッションを通じ、活発な意見交換や情報交換がなされました。

特別フォーラムは、子どもを取り巻く環境が急速に変化しており、また幼稚園教育要領の改訂や幼児教育無償化の問題など、それぞれの価値観が多様化し混沌としているなかで、様々なニーズに応えるべく、「幼稚園教育要領改訂」「保育環境の構成と保育者の役割」「三歳未満児の発達と保育」「保育実践・実技」「幼児教育の展望」「幼稚園を取り巻く環境」を課題テーマとし、各分野に精通した講師をお招きして密度の濃い内容を展開いたしました。また、教員免許状更新講習も兼ねているフォーラムもあり、78名の方が更新講習として受講受験されました。

この2日間の大会が、参加された先生方にとって共に学びあい共に育ちあう場となり、今後の保育にお役立ていただけますと幸いです。ありがとうございました。

(一社)全千葉県私立幼稚園連合会教育研究委員長、
木更津市・岩根みどり幼稚園／平野貴)

大会テーマ 「子どもの未来の幸せをねがう教育を」

～開山1300年 ^{だいせん}大山の麓から～

今年度は鳥取県の担当で、8月22日、23日の2日間、米子市文化ホールをメイン会場に教研大会を開催しました。参加者は520名でした。

22日は、開会式前にウエルカムコンサートとして、大山僧兵太鼓の演奏がありました。まさに大山開山1300年を迎えた年であり、サブタイトルに合ったスタートとなりました。響き渡る太鼓の音で、雰囲気がぐっとしました。

記念講演は、地元の演出家で「鳥の劇場」芸術監督の中島諒人先生にお願いしました。「演劇が育む一人で立つ力、支え合う力」という演題で、演劇が持つ重要な役割について、実際に劇団員のお芝居「3匹のやぎのがらがらどん」を交えながらの講演をしていただきました。「ビデオやDVDと演劇には違いがあり、演劇のよいところは生でお客さんに届ける場所にある。インターネット時代になって生でやりとりをするということが非常に少なくなっている。指先だけでほぼ人とコミュニケーションができてしまう現状がある。どんなにコミュニケーションテクノロジーが進化しても、最終的には人間あるいは動物としてコミュニケーションはエネルギーを使わなければいけない。」真摯によりよい演劇を追究しておられる方からのお話は、迫力がありました。途中にお芝居も入ったことで、感覚的な理解もできました。

基調講演は、全国的にも著名な、白梅学園大学大学院特任教授の無藤隆先生にお願いしました。「幼児教育の今後」という演題で、今後の幼児教育とそのポイントについて講演をしていただきました。幼稚園教育要領のみならず、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領にも関係したグローバルなお話をいただきました。日常関わっている幼児教育について、理論

面を確認していくいい機会となりました。

会場を変えて行ったレセプション「夕べのつどい」は、会員の参加目標を200名に設定していましたが、258名の参加があり、来賓の皆様を含めると総勢275名に膨らむ大盛況の会となりました。公務で開会式は欠席された平井伸治県知事にも出席いただき、ユーモアあふれる挨拶に会場が和みました。乾杯とともに地元のインストゥルメンタルバンド「TOTTRIX (トットリクス)」の演奏があり、歓談の合間に「淀江さんこ節保存会」による「傘踊り・銭太鼓」とこっけいな「壁塗りさんこ」の披露がありました。また、実行委員会によるおもてなしとしてお土産つきの「クイズコーナー」もさせていただきました。

23日は10の分科会に分かれての研修となりました。そのうち、6つの分科会は、ワークショップ形式とし、①記念講演をされた中島先生と鳥の劇場による「表現」のレッスン ②植田正治写真美術館でのフォトスクール ③大山で座禅と自然を体感する散策 ④とっとり花回廊での花の寄せ植え体験 ⑤鬼太郎列車と水木しげるロードでの妖怪世界の体験 ⑥リトミックによる遊び体験 を行いました。また、研修会形式として、⑦特別支援教育研修 ⑧設置者・園長・ネクストリーダー研修を、公開保育として ⑨幼稚園公開保育 ⑩認定こども園公開保育 を行いました。台風20号が四国の南方向から接近していて心配しましたが、天候の崩れはなく、野外での活動も無事行うことができました。参加者からも好評でした。

(鳥取大会実行委員会事務局長、米子市・米子幼稚園／辻田賢次)

大会テーマ 「子どもたちの今と未来の幸せをねがって」

～一人一人の豊かな育ちを支える質の高い幼児教育を～

本大会は、今年度新たな大会テーマのもと、四国4県から総数673名の先生方が2日間にわたり、高松駅に隣接するJRホテルクレメント高松とサンポートホール高松の2会場で行われました。7月の西日本豪雨では四国でも被害があり、参加も心配されましたが、被災された地域の先生方におかれましても大変お忙しい中ご参加いただくことができ、参加への熱意に感銘いたしました。

開会式では、香川県知事をはじめご来賓の皆様からたくさんのお祝いや励ましのお言葉をいただきました。永年勤続者表彰では19名の先生方が表彰されました。

開会式後の記念講演には、聖心女子大学文学部教育学科教授の河邊貴子先生をお迎えして、「新幼稚園教育要領の目指す保育実践～遊びの質をどう高めるか～」という演題でご講演いただきました。始めに映し出されたスライドが、雪だるま作りを楽しんでいる1月の子どもたちの姿。猛暑の続く中、何とも言えない涼しさを感じながらそのエピソードに参加者全員が見入っていました。

遊びこそアクティブ・ラーニング。遊びの質は、学びが深まる遊びと豊かな体験が含まれる遊びから見直していくこと。子どもは「有能な学び手」であるという眼差しを常にもち、子ども理解と遊び理解の両輪をいつも考えること。そして、遊びに没頭できる、ゆとりある時間・空間・「自由感」の保障。応答的で連続的な保育の構想として、子どもの中の文脈が繋がる契機としての「テーマ」。幼児教育におけるカリキュラムマネジメント等、大切な視点でいっぱいのお話でした。最後に「保育時間が長くなる中、どうすれば研修時間を確保できるのかを考えてほしい。研修がないと絶対ダメ。日本の子どもたちはうまく育たない。」という先生の熱い語り

に響きました。この大会も熱い学びの場となり、四国の子どもたちの育ちに繋がっていくことを強く感じた次第です。

分科会では、第1分科会「愛されて育つ子ども」、第2分科会「子どもと共に育つ保育者」、第3分科会「教育・保育理論」、第4分科会「子ども理解」、第5分科会「保育実践」、第6分科会「子どもが育つ家庭や地域」で、2日間にわたり提案発表を聞いたの質疑応答や討議が時間いっぱい活発に行われました。

設置者・園長部会では、全日より講演Ⅰで教育研究委員長である加藤篤彦先生に「私立幼稚園教育の不易・流行」を、講演Ⅱで総務委員長であり本県連盟理事長である坪井久也先生に「幼児教育の無償化と私立幼稚園の課題」についてご講演いただき、今後の園運営を導いていただきました。

1日目終了後の懇親会では、噺家の笑福亭学光氏による落語会で、子どもの笑いのツボが大人とズレていることの発見や、阿波踊りの教授のつもりが徳島から参加の先生方による本物の踊りの披露になるなど、思い出に残る楽しい笑いのひと時となりました。

最後に、今年度から始まった研修スタンプの受け渡しが正確に短時間でできるようにとスタッフ総出で知恵を絞り合い、当日は参加者全員にご協力いただき、無事できたことに感謝致します。ご協力ありがとうございました。

(香川県私立幼稚園連盟研究副委員長、宇多津町・香川短期大学附属幼稚園／廣瀬三枝子)

大会テーマ 「子どもたちの今と未来の幸せをねがって」

～一人一人の豊かな育ちを支える質の高い幼児教育を～

長崎原爆の追悼式典を3日後に控えた8月6日、7日。九州各県より約1300人の参加者をお迎えして、全日本私立幼稚園連合会九州地区会第34回教師研修大会長崎大会が開催されました。

開会式に先駆けて、ロビーでは7つの園がポスター発表を行い、ステージでは長崎女子高等学校龍踊り部の華麗で勇壮な「龍踊り」が披露され、幕を開きました。2体の龍が会場を駆け巡る姿に会場からは大きな拍手と歓声「もってこーい！」（長崎くんちのアンコールのかけ声です）が沸き起こりました。

開会式に引き続き基調講演が行われ、白梅学園大学大学院特任教授 無藤隆先生に「幼児教育の今後」という演題でご講演いただきました。幼稚園教育要領の改訂にも携わられ、テレビや書物などでお名前を知らない人がいないほどの無藤先生のご講演を楽しみにして来られた参加者も多かったようで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿についてより深く学ぶことが出来た」「幼稚園から小学校への接続の大切さが再確認できた」といった感想が寄せられました。

記念講演では、オリンピック金メダリスト 内村航平選手のお母様でスポーツクラブ内村の内村周子先生に『『夢を追い続けて』・・・諦めない！ポジティブに！いつも元気なその秘訣』という演題でご講演いただきましたが、初めから最後まで、そのパワーは全く弱まることなく、会場の全員が引きつけられ、元気をいただける時間となりました。ご経験の中から、母親としての信念や指導者としての思い、人との接し方など、参加者それぞれの立場でお話を受け止める事が出来たようです。

2日目は、12の分科会と設置者・園長向けの講演と免許状更新講習を行いました。

長崎の地形上、分科会の会場が坂の上にあったり、駅から少し離れていたところもあり、参加者の皆様にはご不便をおかけしたかもしれませんが、問題提起園の熱心な発表や助言者の先生方の適切なお助言により、充実した分科会となりました。

また、設置者・園長の分科会は、株式会社ジャパネットたかたの創業者で現在株式会社A and Liveの代表取締役、高田明氏に「夢持ち続け日々精進」という演題でご講演いただき、楽しい中にも人生で大切な事をたくさん織り交ぜたお話で、あっという間に時間が過ぎました。参加者からは、「ミッション、パッション、アクションという言葉が心に残った」「伝えることの大切さを学ぶことが出来た」「長崎らしい講師でよかった」などの声がたくさん聞かれました。

免許状更新講習の講師は、広島大学大学院教育学研究科准教授 中坪史典先生にお願いしました。午前中は「日本の幼児教育の強みを探る」午後は「子ども理解に基づく実践を営む」というテーマで講習をしていただき、84名の先生方が熱心に参加されていました。

他県の先生方は、長崎大会とともに長崎観光も楽しんでくださったようで嬉しく思っています。

この大会のためにご尽力いただいた皆さんの皆様、そして参加してくださった先生方に心よりお礼申し上げます。

（長崎県私立幼稚園連合会研究委員長、長崎市・認定こども園いなさ幼稚園／田中元子）

私幼時報では、平成30年8月号から平成31年3月号の8回にわたり、平成30年1月28日に開催された全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・発達保育実践政策学センター(Cedep)共催シンポジウム「東アジアの保育・幼児教育改革～現職研修と評価を通じた保育者の専門性向上～」の内容を報告します。今号と次号では、シンガポール教育省の就学前教育アドバイザーで、シンガポール社会科学大学の特任准教授であるスン・チー・ワ博士の講演を報告いたします。なおこの報告は便宜上一人称で書きますが、全て引用という訳ではなく、一部平林祥先生(大阪・ひかり幼稚園)が加筆・修正をしておりますことをご了承ください。当日配付されたスライド資料は、発達保育実践政策学センターのシンポジウム報告ページ(http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/project_report/symposiumseminar/sympo_20180128/)からダウンロードできますので、ご参照ください。

シンガポール教育省就学前教育アドバイザー、
シンガポール社会科学大学特任准教授 スン・チー・ワ博士／講演概要

シンガポールにおける保育実践者の専門性開発

こんにちは。このような場で、シンガポールにおいて幼児教育に携わる保育者の学びの機会を豊かにしていく取り組みについてお話しできて大変光栄です。550万人しかないシンガポールという非常に小さな国での取り組みに関して、250倍の人口を抱える中国や10倍の人口を抱える韓国、20倍の人口を抱える日本の皆さまの学びになるようなことがあるのだろうかと思いますが、保育に関わる者のコミュニティのなかで一緒に学びたいと思い、今日はここに立たせていただきました。550万のうち約40%の200万超は他国籍の人で、永住

権あるいは短期的な勤務をするためにシンガポールに来ています。つまり、労働人口の40%は他国籍者というなかで研究者も保育実践者も活動していません。

【本日お話しする内容】

私の本職は研究者ですが、シンガポールは基礎的な段階にあって、政策を立案して実行するにあたっては、他国の研究、あるいはOECDやUNESCOといった幼児教育に関わる国際機関の研究を参考に



新しいものを見るたび、触れるたび、
目覚ましく成長する子どもたち。
子どもたちにとって、毎日が成長の舞台です。
育む環境で、子どもたちの明日は変わる。
だから、私たちは大切なことを「環境」から考えます。
好奇心や想像力、勇気や感動。
そして、子ども同士の関わり合い。
子どもたちが大切な時期に、確かな一歩を踏み出せるように、
最適な環境の未来をつくりあげていきます。

こども環境の未来をつくる



したり、多くの国を訪問して制度の設計や実施に関する経験を学んできました。そういうことで、本日は、政策の決定あるいは実施をする立場からお話しいたします。

ある地域で成功した政策が、他の地域で必ず成功するわけではない、ということは皆さんご存じだと思います。それは社会的、文化的、あるいは政治的な文脈が異なるからです。そういうことも踏まえて、先にシンガポールの幼児教育の状況の背景についてお話しします。

次に専門性開発を支えるインフラについて説明します。その最初の部分では、個別の保育者を支えるインフラについてお話しします。シンガポールでは、幼稚園教諭と保育士を分けて考えるよりも、幼児教育・保育に携わる一つの職というふうに捉えてほしいので、保育実践者と用語を統一しています。専門性開発のインフラについてお話しする時に、リーダーシップの開発についても言及します。

【シンガポールの幼児教育の背景】

シンガポールは資源が本当はない国で、ダイヤモンドも石炭も石油もありません。農業をする土地もありません。人的資源の開発は国の存続において欠かせない絶対条件です。そうであるにもかかわらず、保育者の養成・育成に関してはやや遅れている感があります。シンガポール政府は、2000年になるまで幼稚園と保育所に関して一切規制をかけていませんでした。2000年に、保育者になるための最低資格の導入をしたほか、養成課程についても一定の規制をかけました。同時に、カリキュラムを作成する上でのガイドラインも設定しました。全て2000年から始まりました。その時点では、教育省が幼稚園を管轄し、社会家庭開発省が保育所を管轄していました。

【幼保を統一的に管轄する ECDA の設置】

非常に低い開始点から、一つずつ積み重ねていく必要がありました。そのなかで、2013年が大き

な分岐点になりました（スライド3）。それ以前には、幼稚園と保育所それぞれを規制する法律が別々にあり、保護者と社会は非常に混乱する状況にありましたが、シンガポール政府は2013年に幼保全てを統一的に関わる法律を一本化し、「乳幼児期発達局」（Early Childhood Development Agency: 略称 ECDA）を設立しました。ECDA は、幼児教育・保育のあらゆることに関与しており、幼稚園も保育所も一つの機関の下で管理されるという画期的な変化がありました。ECDA の背後には、教育省と社会家庭開発省が控えていて、ECDA に必要な資源や人材を提供して、ECDA がその役割を果たせるように支援しています。規制や運営について、中国であれば国>省>地域レベルと階層的な構造がありますが、シンガポールは非常に小さい国ですので、ECDA の下に関連部局はなく、ECDA 一つで全てを担当しています。

【シンガポールの幼児教育・保育施設】

シンガポール全土には、現在1,800の幼児教育・保育施設があり、そのうち1,300が保育所、500が幼稚園です（スライド3・4）。幼稚園は3歳から6歳超（＝小学校に入るまで）の子どもたちを対象にしており、保育所は0歳から6歳超の子を対象にしています。欧米の多くの国では、幼稚園ではなく小学校にキンダーガーデンが隣接していることが多いですが、シンガポールでは、日本と同じように6歳超までの学年は幼稚園・保育所に在籍しています。

幼稚園は就学に備えるための施設ですので、長時間ではなく2～4時間の運営になります。ただ、日本と状況が違うのは、2～4時間のセットを午前中に1回、午後に1回の計2回を1日で実施して、1人の先生が午前と午後の2クラスを保育するシステムになっていることです。週に5日間開業していて、長期休暇もあります。それに対して保育所は、土曜日は半日ということで1週間に5.5日の開所で、長期休暇はありません。2008年時点では、幼稚園の約半数は政府の助成を受けて運営していたのに対

して、保育所のほぼ全ては営利目的の民間事業者によって運営されていました。

【民間園の質に働きかける】

教育省と社会家庭開発省の職員と、幼稚園・保育所の質を上げるために相談をしたときに、保育所は全て民間で政府の助成金が入っていなかったのに、「こういう政策をしたい、こういう幼児教育をしていきたい」と思っても、接点がなく、一切言うことを聞いてもらえないという問題に行き当たりました。例えば、子どもと保育者の人数比や子ども1人当たりの面積、防火に対応しているかといった項目に関しても、改善に協力してもらえるか分からない状況でした。

そこで、二つの方策を取りました。一つは、政府直営の国立幼稚園を運営すること。そこで「このぐらゐの質が必要だ」と質の基準を示して、他園が追随することを期待しました。現時点で、国立幼稚園は18園あります。これを2023年までに、50園に増やすことが決定しています。もう一つは、既存の幼保に助成金を与えること。助成金を出すかわりに、それに値する質の高さを要求したり、あるいは特に困難な家庭や環境で育つ子どもたちに対して保育を提供してもらうのです。制度の助成を受けている民間事業者には、核となる事業者と連携事業者の二種

類があります。この二つはどちらも助成金を受けて運営している民営園ですが、政府から得る助成金の金額が違います。それに伴って、政府への報告義務や指示に従わなければならない割合が変わります。核となる事業者および連携事業者が順調に増えてきていて、現時点で政府が直接影響を及ぼすことのできる施設が全体の50%を超えました。

【保育の質の格差】

シンガポールは小さい国で、1,800しか幼児教育・保育施設がないのですが、質に関しても、保育者の資格に関しても、保育料に関しても格差があり、非常に大きな幅があります。例えば保育料に関しては、政府からの助成を受けない営利事業者の園であれば月額でUS \$ 1,500（約17万円）の保育料を請求する園もあれば、宗教法人などが支援して低所得層や恵まれない家庭背景をもつ子どもたちに保育を提供する非営利事業者であれば月額US \$ 150（約1.7万円）の保育料を取っている園もあつたりします。

【保育者の確保と養成、就業継続】

現在のシンガポールの幼児教育・保育が直面しているもう一つの問題として、長時間保育に対する需

保育力の向上のために

資質向上の取組の証明に

キャリアパスや免許更新のために
研修の記録を大切に残しておきましょう！

監修 公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

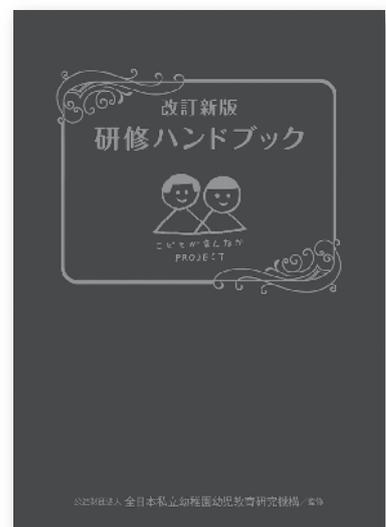
改訂新版 研修ハンドブック

4145301 **648円**（本体600円）

●B6判
●112ページ

ご用命はお近くの書店、またはワンダー販売会社まで。

株式会社 世界文化社 ワンダー CS 事業本部
TEL03-3262-5128



要が非常に高まっていて、その結果、必要な施設の量が保育者の養成を追い越してしまい、保育者の供給が追いついていないことがあります（スライド5）。関連して、そもそも人口が少ないということもありますが、保育者を目指す学生が少ないことと、一度保育者として働いていた人が長期勤務するという点についても課題があります。現在は、50%超の保育者が経験5年以下という状況です。

【専門性開発を支えるインフラ】

専門性開発を支えるインフラには大きく四つの分野があります。第一の分野が、個人の保育者向けのもので（スライド8）。保育者としてのスキルの枠組み、保育専門家としての継続的な専門性開発の枠組み、倫理規程、保育者登録に関するルール、などがこの分野に入ります。第二の分野として、SPARK 認証という仕組みがあり、園を対象とした専門性開発のインフラとして機能しています。第三の分野として、保育者を研修する機関に向けた基準や枠組みがあります。第四の分野として、資源の供給と、助成金を受けている民営の事業者との連携があります。

【個人の保育者の専門性開発を支えるインフラ：スキルの枠組】

保育者には、保育者のレベルが二つ（EY1, EY2）と、より上級の教師のレベルが二つ（L1, L2）というようにキャリアラダーがあり（スライド16）、それぞれの資格レベルによって要求されるスキルが明確に定義されていて、それに応じた受講すべき研修を提示しています。各資格レベルに応じたスキルの詳述では、その資格レベルにある人たちが備えるべき技能について言及しています。それは同時に、例えば上級の教師のレベル2ではどのようなスキルが要求され、そのスキルを獲得するためには、どの研修を何時間受講する必要があるのか、という昇格する上で自分に必要な学びを各保育者が理解するための解説にもなっています。

各資格レベルごとに、大きく四つのカテゴリーの技能が求められます（スライド9）。一つ目は、子どもをホリスティック（全人的）に育てるカテゴリー。二つ目は、保護者や地域社会と協力するカテゴリー。三つ目は、専門家としての能力を積み上げ、継続的に学び続けるカテゴリー。四つ目は、いち保育者としてではなく、組織で働く保育者としての能力を積み上げるカテゴリー。これら4つのカテゴリーについて、各資格レベルに必要なスキルが丁寧に詳述されています。具体的にどのようなスキルが要求されるかという資料は全てアップロードしていますので、興味がある方は、ぜひ URL (<http://www.skillsfuture.sg/skills-framework/ecce>) を参照してダウンロードしていただければと思います。

このスキルの枠組を作成するにあたっては、保育領域だけではなく、シンガポールにおける34の労働分野で働く人たちと、それぞれの職業の各職階で働くためにはどういう技能が要るだろうか、ということをお話しました。その上で、保育領域ではこれだろうと選択したスキルの内容と構造を設定しました。

【個人の保育者の専門性開発を支えるインフラ：CPD】

次にCPD（＝継続的な専門性開発）の枠組みについてお話しします（スライド10）。これは2014年に設定されたもので、各施設で働くそれぞれの保育者が、専門家として継続的に専門性を開発していく上で、施設がどういう枠組みや体制を整える必要があるかを示したものです。

その中の一つに「ニーズ分析を毎年しなければいけない」という項目があります。例えば、特別支援の子どもに対する関わりや記録作成、保護者対応、地域との連携など、色々な項目に興味があると思いますが、保育者が「私はこういうことをしたい。だからこの研修を受けに行きたい」と上司に伝え、それに対して上司の方は「私たちの園にはアレとソレの技能を持つ保育者はいるから、あなたにコレを学

んできてほしい」と相談して希望を擦り合わせて、それぞれの保育者が専門家としてその1年間に何を学んでいくべきかを分析することを要請しています。

【個人の保育者の専門性開発を支えるインフラ：倫理規定】

個人の保育者向けに、倫理規程があります。これは政府ではなく、AECES (Association for Early Childhood Educators) という保育者団体が作ったもので、作成後に ECDA も加わり、事例を提供したり、伝わりやすい文章やレイアウトについて助言していますが、基本的には保育者たち自身が作ったものです。この倫理規程では、スライド 11 に挙げたように、「責任を持ったふるまいをする」「配慮を示し、確かな知識を示す」「各家庭を尊重する」「誠実に働く」「根気強く困難に立ち向かう」「肯定的な関係を構築し、調和を奨励する」という中心的な価値観を示すとともに、子どもたち、その家庭、地域共同体、職業、雇用主に対する責任や、その関係の中での原則について示しています。

【個人の保育者の専門性開発を支えるインフラ：教師登録】

保育者の登録に関する要件があります（スライド 12）。登録の要件は3つあり、乳幼児保育の適格性があるか、学業上の適格性があるか、言語の適格性があるか、の3項目の適格性に応じて総合的に各保育者の資格のレベルが決まります。

(大阪府・ひかり幼稚園／平林祥)

チャイルドブックの月刊保育雑誌

子育て保育応援マガジン

ポット

価格 本体 1,000 円 + 税

好評発売中!

チャイルド本社

保育に役立つ
アイデア満載!

行事 遊び

食育 0・1・2歳児

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL 03-3813-2141 FAX 03-3814-3392
<http://www.childbook.co.jp/pot/>

幼稚園ナビ 新機能が追加されました!

- ご利用には幼稚園ナビ導入セット(右図)が必要です。お手元がない設置者様は、下記お問い合わせまでご連絡ください。
- 合同就職説明会機能や研修機能などこれから益々便利になりますのでぜひご活用ください。
- 研修申込みや免許管理など職員の方も普段使い出来るサイトです!



幼稚園ナビとは?

幼稚園ナビは、全日本私立幼稚園連合会が開発を進めている教員免許取得者の人材確保を目的とした幼稚園に関する求人・イベント情報・お役立ち情報を掲載した幼稚園に特化した全国版総合情報ナビサイトです。



幼稚園ナビの特徴

イベント・求人情報を
無料掲載! 1

求人情報の
簡単登録機能! 2

職員の研修・免許
管理機能搭載! 3

求人票PDFの
自動作成機能 4

ハローワーク求人と
自動連携! 5

自園の魅力を
学生に発信! 6

詳しくはWebサイトをご覧ください

<https://navi.youchien.com/>



お問い合わせ

幼稚園ナビ サポート事務局
担当: 岩崎

☎ 093-647-7330
✉ support@navi.youchien.com

子どもと物（砂・水・道具）とのかかわり ～映像記録の分析から～

(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
縦断研究チーム 箕輪潤子(武蔵野大学)

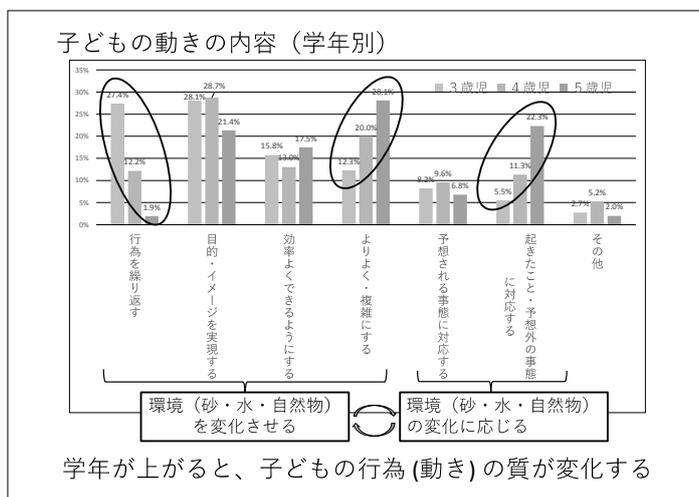
公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構における縦断研究チームが取り組んでいる砂場研究の中間報告第3回目は、映像記録を分析し、考察したことを報告します。

砂場研究の協力園24園から送って頂いた映像記録(子どもが砂場で遊んでいる場面を撮影したもの)は、1映像につき3名の学生に視聴してもらいました。視聴の際には「物事とのかかわり」「人とのかかわり」についての観察項目が書かれたシートを用い、子どもの動き・言葉・表情を文字で記録してもらいました。本報告では、映像(109映像)を視聴した記録(365記録)のうち、「物事とのかかわり」の項目における「(動きを)繰り返す」「試行錯誤する」「工夫する」を中心に報告をします。

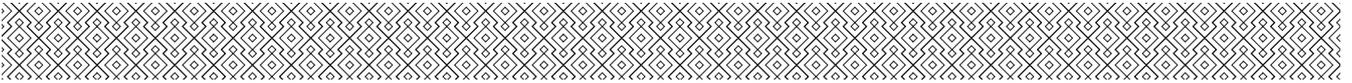
「(動きを)繰り返す」「試行錯誤する」「工夫する」の項目に記載されたこと(子どもの動き)について、その動きがどのようなものなのか・何のためのものなのかという視点で分析をしてみました。その結果、子どもたちの動きは【自ら環境(砂・水・自然物)を変化させる】ための動きと【環境(砂・水・自然物)の変化に応じる】ための動きに分けられることが見えてきました。つまり、環境に対して能動的に変化を起こしていこうとする動きと、環境の変化を受け止めて応じていこうとする動きがありました。このような能動と受動の動きが両方起きるのは、砂や水という変化する素材での遊びだからだと考えられます。さらに詳しく見ていくと、【自

ら環境(砂・水・自然物)を変化させる】ための動きには、【行為を繰り返す】【目的・イメージを実現する】【効率よくできるようにする】【よりよく・複雑にする】ための動きであることが見えてきました。また、【環境(砂・水・自然物)の変化に応じる】ための動きについては、【予想される事態に対応する】【起きたこと・予想外の事態に対応する】ための動きがあることがわかりました。

学年による動きの数の割合を見ていくと、【自ら環境(砂・水・自然物)を変化させる】ための動きについては、【行為を繰り返す】のは3歳児をピークに、学年が上がるごとに減っています。一方で【よりよくする・複雑にする】ための動きは学年が上がると増えていきました。【環境(砂・水・自然物)の変化に応じる】ための動きについては、【起きたこと・予想外の事態に対応する】ための動きが、学年が上がると増えていきました。(図1)



▲図1



東京 大和郷幼稚園 4月 3歳児

▲混ぜた砂と水に何度も触れる (写真 1)

さらに、学年ごとの動きの質の違いを見てみます。**【自ら環境（砂・水・自然物）を変化させる】**ための〔動きを繰り返す〕については、中でも子どもたちは砂の重さや感触・感覚、変化を感じていることが見えてきました。しかし、3歳児は重さや感触そのものを楽しんだり確かめたりするように動きを繰り返している(写真1・2)のに対して、5歳児は作っているだんごを丸くするために丸みを確かめたり、場所による砂の細かさの違いを確かめるために何度も触ったりしていました。(写真3)つまり、3歳児は、砂という素材との出会いそのものを自らの身体で確かめるために、5歳児は、自分のイメージを実現したり予測したことを確かめたりするために動きを繰り返していることがわかります。



東北 聖パウロ幼稚園 5歳児

▲砂の細かさの違いを試す (写真 3)

〔よりよくする・複雑にする〕ための動きについては、学年が上がるにつれて増えていきます。3歳児は型抜きできれいな形を作ること・きれいに飾ること、4歳児はより高い・長い・深い・強い等に向けて、道具の使い方や動きを変化させること、5歳



九州 きらきら星幼稚園 3歳児 4月

▲繰り返し砂を容器に移す (写真 2)

児は、より高い・長い・深い・強いだけでなくより複雑なもの・描くイメージ等に向けて道具の使い方や動きを細かく調整するという学年による違いも見られました。学年が上がるにつれ、遊びの目的・目標が複雑になるとともに、道具の選び方や使い方を調整するようになっていくということがわかります。

〔目的・イメージを実現する〕ための動きについては、頻度は学年での違いはみられませんでした。3歳児は、砂の状態に沿って動きや道具の使い方を変えようとしていました。4歳児は複数の道具を試し、より目的に沿った道具を使おうとする・砂の質感を変化させるために水を用いていました。5歳児は、複数の道具を組み合わせる・様々な道具の使い方をする・道具を用いて、砂の質感を変化させるなどしていました。(写真4)



東海北陸 木の花幼稚園 12月 5歳児

▲より細かい砂を作る (写真 4)

【環境（砂・水・自然物）の変化に応じる】ための動きについては、〔起きたこと・予想外のこと〕



水が溢れてもいいようにバケツの横にコップを置く。

九州 ひまわり幼稚園 3歳児 4月

▲バケツから溢れた水をコップで受けようとする (写真5)



水が流れて行ってしまわないよう、手で泥をせき止めたり、押し返したりする。

北海道 美晴幼稚園 5歳児 5月

▲水が流れないように工夫する (写真6)

に対応するための行為が、年齢が上がるにつれて増加していました。動きの質の違いをみていくと、3歳児では、原因を取り除こうとする・原因に対処するという動きがみられましたが(写真5)、4歳児になると別の方法を試す、5歳児では同じようなことが起きないようにするという動きがみられました。経験を重ねる中で、原因と結果の関係が見えてくると、どうなるか予測をして動くようになっていくことが考えられます。(写真6)

以上のことから、砂場での「物事とのかかわり」の育ちについて、次のような育ちがあるのではないかと考えられます。まず、砂・水・道具・自然物などとの関わりを繰り返す中で、対象の性質を感じる・気づく。次に、砂や道具の性質を知り、道具・自然

物の使い方がわかるようになると、遊びの目的・目標や状況に応じた動きをするようになる。そして、遊びの目的・目標がさらに具体的になり、見通しを持ちながら素材の性質や道具の使い分けなどをするようになっていく。つまり、砂場の中で砂や水、道具と出会い、その性質や特徴を確かめる時期があつての、試行錯誤や工夫する育ちにつながっていくということです。

今後また、さらに子どもたちがどのように砂場の物事に興味関心を持ち、観察し、発見や気づきにつながっていくのかといったことについても検討していけたらと思っています。

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス



らくらくメール

園から保護者へらくらくメール送信！
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安心です。



らくらくバスメール

スマートフォンでバスメールを送信！
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。

ぜ〜んぶ学研に
おまかせ!!

心機一転！
リニューアル

オリジナル！
キャラクター
ロゴ

Flashで
動画！

らくらくホームページ

目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にもシステム併用でご対応いたします。

市民としての子どもを考える教育の可能性 ～スウェーデンにおけるレッジョ・インスパイアの 幼児教育に注目して～

10月20日、東京大学・鉄門記念講堂において、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターと、SGU 戦略的パートナーシップ大学プロジェクトストックホルムチーム、(公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構、東京大学教職支援ネットワークによる合同シンポジウムが開催されました。今回は「市民としての子どもを考える教育の可能性～スウェーデンにおけるレッジョ・インスパイアの幼児教育に注目して～」をテーマに講演と指定討論が行われました。

小玉重夫東京大学大学院教育学研究科長・教職支援ネットワーク会長と、東重満(公財)全日私幼研究機構理事長による開会挨拶の後、講演がはじまりました。

講演は、ストックホルム大学講師・研究員のBodil Halvars氏と、Ingela Elfstrom氏より「学びが関係性の場であるということ：スウェーデンにおけるレッジョ・インスパイアの幼児教育・保育の経験から」をテーマに行われました。

その後、浅井幸子東京大学大学院教育学研究科准教授・教職支援ネットワーク幹事、東重満(公財)全日私幼研究機構理事長、Bodil Halvars氏、Ingela Elfstrom氏をパネリストに迎え指定討論が行われ、質の高い幼児教育についてそれぞれの立場からお話がありました。

最後に秋田喜代美東京大学大学院教育学研究科教授・同附属発達保育実践政策学センター長より閉会挨拶があり、本シンポジウムは終了いたしました。



▲開会



▲ Ingela Elfstrom 氏



▲ Bodil Halvars 氏



▲指定討論



はじめてみませんか

寄付金募集

寄付金募集の際には日本私立学校振興・共済事業団の

受配者指定寄付金制度

をご活用ください

受配者指定寄付金制度を利用して、学校法人立の私立幼稚園へ寄付を行うと、寄付者（企業・法人）は法人税法上の優遇措置として全額損金算入することができます。

ご利用には一定の要件があります
まずは、下記までお気軽にご相談ください

日本私立学校振興・共済事業団
助成部 寄付金課
〒102-8145
東京都千代田区富士見 1-10-12
TEL 03-3230-7316 ~ 7318
e:mail kifukin@shigaku.go.jp
HP-URL <http://www.shigaku.go.jp/>

寄付金は私立学校の
重要な収入源です！

※子ども子育て支援施設（学校法人が設置する幼保連携型認定こども園）支援のための寄付金もこちらの制度の対象となります

あの日から 7 年半たった今

「気仙沼の復興には今後何年、何十年かかるかわかりません。その道のりは遠く、険しいものになることと思います。しかし、子どもたちの笑顔・成長が、私たちの明日への希望です。一步一步明日を信じて、お子様と一緒に歩み続けられますことを、心よりお祈り申し上げます。」

これは、東日本大震災後、休園を余儀なくされていた本園で、3月末に帰ろうじて行うことができた、卒園式における園長式辞の一節です。あの日から7年半たった今、仮設住宅が撤去され、震災後初めて校庭をフルに使っての運動会で、中学生となった卒園児たちが躍動する姿に、感慨深いものがあります。

また、沿岸部での地盤のかさ上げ工事も進み、市内各所には高層の災害公営住宅が立ち並び、災害公営団地には、新しい住宅街ができあがりつつあります。復興への道のりを一歩ずつ歩んでいます。

しかし、園の目の前に完成した13階建て2棟、194世帯が入居した災害公営住宅から入園したのは、たった1名。団地には、新しい自治会設立の動きがあるものの、高齢者が多く、役員を引き受ける人がいない、という現状があります。更に、震災前は2800人だった市内の0～5歳児は、30年度には2100人と減少しています。

そんな中、市内の4園は、来年度から子ども子育て支援新制度の幼稚園に移行します。子どもたちの笑顔を道標に、市との連携を深めながら、持続可能な幼稚園を目指し、今後も歩み続ける決意を新たにしています。

（(一社)宮城県私立幼稚園連合会理事、気仙沼市・葦の芽幼稚園／小野寺純一）

和歌山県私幼の現状について

和歌山県私立幼稚園協会の会員は、37園です。その内、幼保連携型認定こども園は8園、幼稚園型認定こども園は3園、計11園ですが、県私幼協会に加盟しています。

私には最近嬉しく思うことができました。

ある市の小さな幼稚園が長らく地域の幼稚園として役割を果たしてきたにも関わらず、市の方針として公立の保育所を統廃合して一つの大きな保育所にまとめ、幼稚園の近辺に新しく立派な施設を造りました。その為に、幼稚園は園児が集まらず、ついに閉園を考えざるを得なくなりました。

園長先生はつらい決断をして、私のところに「理事長先生、私の園は閉園せざるを得なくなりました。」と状況を詳しく説明してくれました。

各所と上手く交渉できなかったのだろうか、悲しい思いをしていました。

それから一年足らずだったか、ある日、又その園長先生から電話がありました。「その後、保護者の皆様からやめないで欲しい、私たち保護者も幼稚園の存続に向けて努力します。せっかく幼稚園として幼児教育の歴史と伝統をつくってくださったのです。閉園したら寂しいし、何より卒園した子どもたちの心の故郷がなくなってしまう。頑張りましょう、と言ってくださいました。」とのことでした。

「一園でも私学の火を消すな」と声をかけ続けてきた私としては、とても嬉しいことでした。

和歌山県私幼は小さな団体ですが、幼児教育の火を灯し続けたいと思っています。何より心強いのは、県知事や県の教育長の温かいご理解があり支援をいただいていることでもあります。

この秋、ちょっと嬉しい便りをお届けしました。

（和歌山県私立幼稚園協会理事長、有田郡・認定こども園湯浅幼稚園／松下瑞應）

編集後記

秋がやってきました。北陸には珍しい、透き通るような青空。美しい季節の到来に気持ちも高揚します。今年はいつまでも降り続く雪に、ただただ途方に暮れていた豪雪の冬、焼けるように日が射し、子どもたちが倒れはしないかと不安になった酷暑の夏を経験しました。そんな大変な季節を超えてきたからか、格別に嬉しく感じます。

昨今の自然の猛威は子どもたちの戸外での活動に対して不安を覚えます。安全で健やかに遊べる

ために、「園庭には屋根が必要？」などと、ふと頭をよぎったりします。「どんな天気もいい天気」と言いながら、晴れは晴れの、雨は雨の体験ができた時代は終わってしまうのでしょうか。これからの子どもの遊びはどんなふうになっていくのでしょうか。のびのびと駆け回っていた自分の幼少の頃を思い出し、懐かしさと同時に有難さも感じてしまう今日この頃なのです。

(調査広報副委員長・源恭子)

私学研修福祉会 海外研修員募集 12月5日締切

一般財団法人私学研修福祉会では、2019年度の海外研修員の募集を行なっています。●申込資格：私立幼稚園及び認定こども園の専任教員又は専任職員で、現在の勤務園に継続して2年以上在職の方（原則として50歳未満の方で、2週間以上の期間研修可能の方）●助成対象経費：日本との往復及び外国内での移動にかかる航空賃、船賃の実費及び滞在費●助成金：助成対象経費の50%以内（2020年3月末の精算）●申込締切：12月5日必着●申込：同財団ホームページで募集要項・申込書などをダウンロードし、必要事項記入のうえ理事長、学園長の推薦を受けた後、私学研修福祉会に提出。●研修員決定時期：研修内容等を審査のうえ2019年3月末ごろに決定予定。

▼一般財団法人私学研修福祉会ホームページ
<http://www.skf.or.jp/kensyu/>

平成30年度 「家族の日」「家族の週間」

内閣府では、子供と子育てを応援する社会の実現に向けて、家族や地域の大切さについて、理解を深めることを目的に、「家族の日」「家族の週間」を定めて普及啓発に取り組んでいます。平成30年度の予定は次のとおりです。

- 家族の日：平成30年11月18日（日）
- 家族の週間：平成30年11月11日～24日

子育てを支える家族や地域の大切さ等についての理解促進を図るため期間中は広報活動、フォーラム等の開催などの取り組みを積極的に実施致しております。

詳しくは内閣府のホームページをご覧ください。

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>

PTAしんぶん ぜひご活用ください

「全日私幼連 PTAしんぶん」は「子どものしあわせを願う親と先生のひろば」としての役割を果たしています。また、「人生のスタートにこそ良質な教育を」にキャッチコピーをリニューアルし、内容の更なる充実を図っています。

PTAしんぶんのご購読を希望される園は、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構までお問い合わせください。 ☎ 03-3237-1957 (公財)全日私幼研究機構・調査広報委員会

平成30年度（第10回）免許状更新講習の認定一覧

●必修領域「全ての受講者が受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
大分県 大分市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は1月26日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	安家 周一（梅花女子大学 教授）	6時間	平成31年1月27日	120人	平30-80011-101062号
北海道 札幌市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は1月11日の選択必修講習と連続して行うものです。	吾田 富士子（藤女子大学 人間生活学部保育学科教授） 川端 美穂（北海道教育大学 旭川校准教授）	6時間	平成31年1月10日	150人	平30-80011-101063号
北海道 伊達市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は1月11日の選択必修講習と連続して行うものです。	吾田 富士子（藤女子大学 人間生活学部保育学科教授） 川端 美穂（北海道教育大学 旭川校准教授）	6時間	平成31年1月10日	50人	平30-80011-101064号
北海道 旭川市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は1月11日の選択必修講習と連続して行うものです。	吾田 富士子（藤女子大学 人間生活学部保育学科教授） 川端 美穂（北海道教育大学 旭川校准教授）	6時間	平成31年1月10日	100人	平30-80011-101065号
北海道 帯広市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は1月11日の選択必修講習と連続して行うものです。	吾田 富士子（藤女子大学 人間生活学部保育学科教授） 川端 美穂（北海道教育大学 旭川校准教授）	6時間	平成31年1月10日	70人	平30-80011-101066号
北海道 北見市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は1月11日の選択必修講習と連続して行うものです。	吾田 富士子（藤女子大学 人間生活学部保育学科教授） 川端 美穂（北海道教育大学 旭川校准教授）	6時間	平成31年1月10日	50人	平30-80011-101067号

●選択必修領域「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
大分県 大分市	近年、幼稚園教育を学校教育の始点として捉える動きの中で、幼稚園教育要領の改訂が行われた。幼稚園教育要領は、教育制度全般におけるこういった方向性の中で、何を重視して子どもを育てていくのか。生涯教育の起点としての幼稚園教育の在り方を、教育課程という観点から窓口にしながら共に考えてみたい。なお本講習は、1月27日開催の必修講習と連続して行う。	門田 理世（西南学院大学 大学院教授）	6時間	平成31年1月26日	120人	平30-80011-302277号
北海道 札幌市	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」の2項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識の修得と今日的な教育的課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。なお、本講習は1月10日開催の必修講習と連続して行うものです。	工藤 ゆかり（北翔大学 教育文化学部 教育学科講師） 高橋 真由美（藤女子大学 人間生活学部 保育学科教授）	6時間	平成31年1月11日	150人	平30-80011-302278号
北海道 伊達市	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」の2項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識の修得と今日的な教育的課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。なお、本講習は1月10日開催の必修講習と連続して行うものです。	工藤 ゆかり（北翔大学 教育文化学部 教育学科講師） 高橋 真由美（藤女子大学 人間生活学部 保育学科教授）	6時間	平成31年1月11日	50人	平30-80011-302279号
北海道 旭川市	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」の2項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識の修得と今日的な教育的課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。なお、本講習は1月10日開催の必修講習と連続して行うものです。	工藤 ゆかり（北翔大学 教育文化学部 教育学科講師） 高橋 真由美（藤女子大学 人間生活学部 保育学科教授）	6時間	平成31年1月11日	100人	平30-80011-302280号
北海道 帯広市	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」の2項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識の修得と今日的な教育的課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。なお、本講習は1月10日開催の必修講習と連続して行うものです。	工藤 ゆかり（北翔大学 教育文化学部 教育学科講師） 高橋 真由美（藤女子大学 人間生活学部 保育学科教授）	6時間	平成31年1月11日	70人	平30-80011-302281号
北海道 北見市	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」の2項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識の修得と今日的な教育的課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。なお、本講習は1月10日開催の必修講習と連続して行うものです。	工藤 ゆかり（北翔大学 教育文化学部 教育学科講師） 高橋 真由美（藤女子大学 人間生活学部 保育学科教授）	6時間	平成31年1月11日	50人	平30-80011-302282号

●選択領域「受講者が任意に選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
広島県 広島市	本講習では、子どもの成長発達における「遊び」の重要性について再考します。具体的には、講義や保育実践の映像を用いたカンファレンスを通して、自らの子ども観や保育観を振り返るとともに、園全体で遊びの質を高めるための幼児理解や保育者の援助について考えていきます。	湯地 宏樹（鳴門教育大学 大学院学校教育研究科教授） 中丸 元良（比治山大学 短期学部非常勤講師）	6時間	平成31年1月12日	250人	平30-80011-508891号
埼玉県 さいたま市	【愛されて育つ子ども】今年度、公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の研究課題のテーマの一つである。2園の発表者の保育実践例をもとに、グループ討議等を行い、子どもたちのやさしさや思いやりの育ちについて研究を深めていく。	大澤 洋美（東京成徳短期大学 教授）	6時間	平成31年1月19日	20人	平30-80011-508892号
埼玉県 さいたま市	【保育育理論】今年度、公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の研究課題のテーマの一つである。2園の発表者の保育実践例をもとに、グループ討議等を行い、発達の連続性を踏まえる保育について研究を深めていく。	安見 克夫（東京成徳短期大学 教授）	6時間	平成31年1月19日	35人	平30-80011-508893号
埼玉県 さいたま市	【子ども理解】今年度、公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の研究課題のテーマの一つである。2園の発表者の保育実践例をもとに、グループ討議等を行い、気になる子や障がいのある子の保育について研究を深めていく。	横山 文樹（昭和女子大学 大学院教授）	6時間	平成31年1月19日	20人	平30-80011-508894号
埼玉県 さいたま市	【保育実践】今年度、公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の研究課題のテーマの一つである。2園の発表者の保育実践例をもとに、グループ討議等を行い、環境の構成と保育の記録について研究を深めていく。	田澤 里喜（玉川大学 准教授）	6時間	平成31年1月19日	25人	平30-80011-508895号
北海道 旭川市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の2つの事項について理解と実践をふり返り、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	佐藤 公文（北海道教育大学 旭川校教育学部非常勤講師）	6時間	平成31年1月12日	100人	平30-80011-508896号
大阪府 大阪市	新幼稚園教育要領が平成30年度より全面実施されている、小学校から高校までは先行実施されつつ、平成34年度にかけて順次全面実施される予定である。今後教育はどのように変わっていくのか、そして幼児教育はどのような位置づけになるのかを考えていきます。 また子どもの運動能力の低下が指摘されるようになり、幼児期にふさわしい生活習慣や運動習慣について検討され、平成24年には幼児期運動指針としてガイドブックやパンフレットが文科省から発信されました。今回は幼児期の運動特性や配慮などについて理解を深めます。	水谷 豊三（大阪教育大学 非常勤講師）	6時間	平成31年3月28日	140人	平30-80011-508897号

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とキャリア

毎月2日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表